

園長通信

(令和7年度1月号)

幼稚園型認定こども園高槻双葉幼稚園
園長 岡部 祐輝

【新たな1年のスタートに際して】

皆様、新年あけましておめでとうございます。旧年中は、園の教育・保育の実施に際し、多大なるご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。本年も皆様にとって、素敵な時間や場面が数多く訪れる1年となりますことを祈念しております。

年末年始は皆様、いかがお過ごしでしょうか。私も子どもの頃、年末年始は掃除をしたり、学校から出た宿題をしたり、普段会えない友だちや親戚に会ったりという機会がありました。また日常の日々と少し異なる時間の過ごし方ができるこの期間はなんだか「わくわく」や「どきどき」した記憶があります。

近年、社会や家庭の在り方も多様になってきているため、「日本の年末年始」の過ごし方も、大変多用になってきていると思います。「年末年始と言えばこうだね」という固定概念だけでコミュニケーションをとるのではなく、それぞれの過ごし方、楽しみ方を互いに受け止め合っていくことも、改めて大切にしたいですね。

本年も、職員一同精一杯、子どもたちの成長を支えていけるよう努めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【生成AIとともにある時代の中で大切と考えること】

近年、急激に社会の変革が進んでいます。特に生成AIに関する領域での進化のスピードはとてつもない速度で変化しています。私もこれまで生成AIに関する研修や講義を受ける中で、この生成AIがもたらす影響について考えることが多くあります。

先日とある研修会で、「社会とAI」について向き合いながら考える機会がありました。会場では参加者がそれぞれつぶやきをネットで投稿し、それを会場内で参加者全員でシェアできる仕組みでしたが、「**このようなことまでできるのか。怖い**」、「**今できないことができると思うとワクワクする**」など、様々な捉え方がなされていました。現在、「シンギュラリティ」といわれる、AIが人間の知能を超えるといわれている地点への到達が、過去の予測よりずいぶん早く訪れるのではないかという予測が出ています。またあわせて、「いま、人間が行っている仕事がAIにとってかわられるのではないか」と言われる報道も、見聞きされた方もおられるのではないのでしょうか。

生成AIは、質問したことをタイムリーに返答してもらえる大変便利な面があります。一方で、その情報の真偽などは自分で判断しないといけない場合があります。このような社会の中で生きるこれからの子どもたちには、私は現段階で以下の力を育んだり、経験をしたりする必要があると考えています。

● 「生成AIがやったんで・・・」で終わらせない

現在、大学等の機関でも論文や課題などを生成AIが作成し、そのまま提出するということが問題になっていることがあります。これは置き換えると、「誰か（もしくは何か）に代理で頼んで（指示をして）してもらった」という見方にもなるかと思えますし、場合によっては「私がしたのではなく、生成AIがしたので、私に責任はない」というような論調になることも考えられます。このようなことから、「討議する」、「多様な意見を収集する」、「自分の価値観を揺らすために意見を壁打ち的に使う」というスタンスでの使用が大切ではないかと考えています。

● 「問いを持つ」 / 「問いを生み出す」

これからの学習の中で重要なこととして、「自ら進んで問いを持つ」ということが挙げられています。これは学校や園で学び、経験したことを次の経験につなげたり、活かしたりすることを通して知識や技能が深く定着していくという考え方が基盤にあります。その中で、受け身で言われた課題を言われた通りに行い学ぶのではなく、問題や事象から自分事に引き寄せて考える中で、「これはどうなんだろう？」、「こうしたらどうなるんだろう？」など仮説を作り出したり、仮説を検証したりする中で、「問い」を深めていくことが重要です。そして検証する際に、ツールやネットにあふれる情報を鵜呑みにするのではなく、「ファクトチェック」（情報の正確性・妥当性を検証する行為）や、批判的思考（多様な角度から検討し論理的、客観的に理解すること）などの力を養っていくことが大切です。

● 「長期的思考」を養う

前述の通り、「すぐに答えがもらえたり、フィードバックがもらえたりする」ことが多くなるなどスピーディーなことに価値がおかれる風潮が一定あると思います。しかし、時には、直ぐに返答や答えがもらえず、じっくり考え向き合うことが重要なこともあります。もともと人類は、このように、「長期的な思考」が発達していたといわれていますが、急速な情報化社会の中、短期的思考が加速してしまっていることが、時に息苦しさや閉塞感を生み出している要因とも考えられます。「じっくり味わう」、「答えを急がず丁寧に討議する」、「長期的な見通しを描く」などの過ごし方も時に重要と考えます。

● 「正解主義」から脱却する

中央教育審議会答申では、「我が国の経済発展を支えるために、「みんなと同じことができる」「言われたことを言われたとおりにできる」上質で均質な労働者の育成が高度経済成長期までの社会の要請として学校教育に求められてきた中で、「正解（知識）の暗記」の比重が大きくなり、「自ら課題を見つけ、それを解決する力」を育成するため、他者と協働し、自ら考え抜く学びが十分なされていないのではないかという指摘もある。」（※1）という記述があります。

このように、「正解」や「基準」、「ルール」を求める傾向が強くなる土壌がこれまでの教育の中にはありました。これからの不確実性の時代に突入していく中で、「未知のことにも対応できる柔軟に考える力」、「困難や危機に立ち向かい、しなやかに対応できる力」も重要な力と考えています。園としても、自分と違う意見があるから多様に考えられること、他者の意見と調整する機会を大人の都合で奪わず、主張しあえる機会を大切にすることなどに、活かしたいと考えています。

~~~~~

3学期の始まりも近づいてまいりましたが、1年間子どもたちがたどってきた足跡や成長の軌跡を見て感じていただき、「成長展」が2月に予定されています。そちらについては在園の方には配信でまたねらいなどをお伝えしますが、ぜひ子どもたちが活動や生活の過程の中で、何を感じ、何を面白がり、何を表そうとしたか、保護者の皆様とともに味わえる時間となれば幸いです。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

(引用)中央教育審議会『令和の日本型学校教育』の構築を目指して-全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現(答申)2021年。(※1)